様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2006～2008
課題番号：18320036
研究課題名（和文）　１５世紀を中心としたイスラーム世界における書画芸術の動向

研究課題名（英文）　The activities and tendencies of painting and calligraphy around The 15th century in Islamic world

研究代表者
ヤマンラール水野　美奈子　（YMANLAR MIZUNO MINAKO）
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：50279098

研究成果の概要：
本研究では、イスラーム世界の白羊朝(1378-1508)のヤアクーブ・ベク(1478-1490)の宮廷で編纂された 2 冊の詩画帳（ムラッカア）（トプカプ宮殿美術館所蔵、登録番号 H.2153,2160）の書・絵画　合計 2152 点の作品の綿密な分析・分類・研究によって、15 世紀の白羊朝を中心とした書画芸術の動向を解明した。本研究によって従来ティームール朝美術の影に隠れていた白羊朝美術の独自性が鮮明になり、白羊朝が東西交流の重要な拠点の一つであることを確認した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	2,800,000	840,000	3,640,000
２００７年度	2,300,000	690,000	2,990,000
２００８年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
年度			
総　計	7,100,000	2,130,000	9,230,000

研究分野：イスラーム美術史・イスラーム文化史
科研費の分科・細目：哲学　美学・美術史
キーワード：サライ・アルバム、ムラッカア、イスラーム絵画、イスラーム書道、白羊朝、画論、東西交流史、ティームール朝美術

１．研究開始当初の背景

平成 10～12 年度基盤(C)(1)「トプカプ宮殿美術館蔵　宮廷画帳の研究」、平成 14～16 年度基盤(B)(1)「イスラーム世界の詩画帳に関する文化史的・芸術的観点からの総合研究」の２回の科研費によってトプカプ宮殿美術館で行った登録番号 H.2153 と H.2160 の詩画帳の調査・撮影で、合計 289 フォリオ、書作品 1397 点、絵画作品 668 点、切り紙作品 87 点、合計 2152 点のデーターベースを作成していた。

本研究は、これら 2 冊の詩画帳（ムラッカア）のデーターベースの分析を中心に、新たにトプカプ宮殿美術館、ベルリン国立博物館、イランの国立議会図書館などで補足的調査を行い、下に挙げる研究目的の達成を試みるものであった。

特にイランの諸図書館が所蔵する詩画帳関係写本は本研究の書道部門において重要な資料となることが予測された。

また 2000 年代初頭にアメリカの書誌学研究者は、詩画帳（ムラッカア）の序文に関す

る研究を活性化させたが、ムラッカアというイスラーム世界独自の書物形態の巻頭の研究は、本研究を進める上でも有効に活用できるはずであった。本研究の対象である 2 冊の詩画帳は序文を冠しないが、同時代の詩画帳の序文は、詩画帳（ムラッカア）構成に関して一般的な傾向を暗示しているという点で本研究の開始にあたって期待が持てた。

白羊朝は、15 世紀にティームール朝とオスマン帝国に挟まれた西部・中部イランで独自の美術・文化を形成した。その美術は、ティームール朝やオスマン帝国の美術と平行して形成されたもので、イスラーム美術史研究において独立した分野としての研究が必須であるが、内外において、ティームール朝美術の一部としての扱いに留まっており、まだ十分な研究がおこなわれていない。本研究は、2 冊の詩画帳の作品を根拠として、白羊朝の書画芸術の動向を明らかにし、究極的には白羊朝美術史の一端を解明することを目的としている。

２．研究の目的

上記 2 冊の詩画帳は現在のところ白羊朝の 15 世紀後半にヤークブ・ベク(1478-1490)の宮廷で編纂され、16 世紀前半にオスマン帝国に献上されたとする説が有力であるが、確証はない。また詩画帳に貼られている 2152 点の作品のうち、書のごく僅かな作品以外、製作年代、製作地は不明である。絵画に至っては製作地、製作年代の判明しているものは皆無である。書、絵画ともに 14 世紀後半から 15 世紀末までに製作されたと想定されているにすぎない。このような状況の中で、本研究は以下の４点を主な研究目的とし、白羊朝の詩画芸術の動向の解明を試みた；

①オリジナル装丁の究明：2 冊の詩画帳は数回にわたり装丁がやり直されている。オリジナルの装丁の手がかりを見つけ、イスラーム世界に伝統的な書物形態であった同時代の詩画帳（ムラッカア）と比較研究する。

②同一ページに貼られた書と絵画の関連性に関して：従来の欧米やトルコの研究では、書を詳しく分析することなく、書と絵画の関連性はないとしていたが、本研究では書の内容を精読し、絵画にも綿密な分析を行い書と絵画の関連性を再考する。

③画家の作品分析：絵画には 20 名ほどの書家の名前が残されている。それらの画家名の多くは後世の書き込みであり、一般の写本の細密画には現れない画家も多い。画家名に惑わされることなく絵画分析を綿密に行い絵画の流派などを特定し、数少ない他の白羊朝の細密画などと比較研究する。

④書家の作品分析：書の作品には奥書に製作年代、製作地が残されている作品が僅かではあるが存在するので、それらを基に白羊朝の書道の系統の一端を究明する。

研究目的④は科研費申請の書類にはなかったが、研究協力者の関喜房（東海大学）のイラン諸図書館での調査が可能になったことで加えた。

３．研究の方法

①合計作品 2152 点、20GB を超える画像データーベース資料の精密な分析。

②研究テーマに沿ってデーターベースを分析した結果の整理・分類

③トプカプ宮殿美術館、ベルリン国立博物館、イラン国立議会図書館などでの追加調査。2 冊の詩画帳に関連した作品の調査。

④日本におけるサライ・アルバム研究会は研究期間で 4 回(通算 22 回目)の研究会を開催した。トルコにおける共同研究会も断続的に継続した。最終年度はハーヴァード大学で詩画帳（ムラッカア）の研究グループを組織している美術史学科のギュッル・ネジプオウル教授の来日にあわせ国際ワークショップを開催した。

４．研究成果

上記４項目の研究目的の成果は、データーベース化し保存している。しかし本研究の対象である 2 冊の詩画帳は、過去２回の科研費の研究資料を基にカタログの作成・出版がトルコ共和国にて予定されており、出版が実施されるまで電子データーの公開はできない。ただし 2 冊の詩画帳の作品の中から、特に作品を指定してデーターを申請した場合、文字資料は本研究代表者に請求することが可能である。

研究目的①に関して：2 冊の詩画帳の装丁に関しては、綴じ方、綴じ糸穴、台紙への作品の貼り付け技法及び貼り方などからオリジナル装丁形態の究明に努めた。その一部は発表論文の関喜房が 2005 年に発表した論文(“A Report on the Binding of Two Albums by Sultān Ya’qūb”、Nāmeh-ye Bahārestān vol.9-10、pp.44-55 テヘラン （原文ペルシア語)）に明らかである。本研究はそれをさらに進め画像的資料も加えた。2 冊の詩画帳の装丁の詳細はデーターとして保存されている。同時代の詩画帳との比較に関して、同じくトプカプ宮殿美術館が所蔵する登録番号 H.2152 の詩画帳との比較を考えていた。この詩画帳はオスマン帝国への伝来は本研究対象の 2 冊の詩画帳と同じく 16 世紀前半と考えられているが、

詩画帳の編纂自体はティームール朝の支配者バーソンゴル・ミールザー(1379-1433)の時代と考えられており、白羊朝のヤークブ・ベク(1478-1490)の宮殿で本研究対象の 2 冊の詩画帳が編纂されたときの手本になった可能性も高く、比較研究が強く望まれるところであったが、所蔵庫である図書館が改築のため 2006 年後半から閉鎖されたため、比較研究は今後の課題として持ち越された。

研究目的②に関して：2 冊の詩画帳においては、書と絵画が無秩序に貼られている。同一ページにおける書と絵画の間に関連性があるか否かに関しては、関連性がないという解釈が一般的であった。しかしながら完全に無関係と言えないページもあり、本研究では書と絵画との関連性に関して再考を試みた。しかしそのためには書の内容の分析と絵画の図像学的分析が前提となる。

書の内容に関しては、研究協力者関喜房が総数 1448 点におよぶ書の全作品に関して、ごく短い断片的な作品にいたるまで出典を解明した。関喜房はその緻密な研究をイランでの諸図書館において行い、その成果をイランの書誌学写本研究誌として最も権威のあるイラン議会図書館が刊行する Nāmeh-ye Bahārestān に寄稿し、その業績が高く評価された。彼の研究を機に、イラン研究者の間にムラッカア研究を活性化させる必然性が提唱され、同誌には詩画帳（ムラッカア）の部門が新設され、関喜房は同誌の編者に選出された。

絵画に関しては、画題だけでなく描かれたモチーフの図像的解釈も必要であり、今後の研究に残されたものが多い。研究協力者の小柴はるみ、松本菜穂子の詩画帳の絵画に描かれた楽器、舞踏の研究は（雑誌論文５－７）15 世紀のイスラーム世界の音楽文化研究として、また楽器の東西交流関係史などとして注目される。研究代表者ヤマンラール水野美奈子の詩画帳に 20 点存在し、他に例を見ない半円形図案の用途に関する新説（障泥説）は、2003 年にヨルダンで開催された国際トルコ美術史学会で発表済みであるが、本科研費の雑誌論文（２）では半円形に描かれたモチーフの分析も加え中国の馬具装飾との関連性を明らかにした。

この２冊の詩画帳には、中国のオリジナル絵画、中国絵画の模写、中国風絵画など中国美術の影響を強く残す作品が多く、上記の馬具装飾図案も含め、中国文化受容に関する書からのヒントを求めたが、現在のところこれら中国美術との関連性を示唆する書の作品は見出せていない。

研究代表者は、ティームール朝の能書家ジャアファル・バーイソンゴーリーの書いた H.2153 のフォリオ 98 の h.1 の書の作品「上申の書」の和訳を行った。（発表論文１）「上申の書」はティームール朝支配者バーソンゴルの宮廷図書館長も務めていたジャアファル・バーイソンゴーリーが、当時の図書館付属の宮廷工房の作業の状況を報告した貴重な資料であり、既に英語、トルコ語、ペルシア語に翻訳されているが、本和訳はこれまでの翻訳で解釈できていなかった用語のほとんどを解明した。用語の解明は評価を得るものと確信しているが、この上申書で報告されている画家や作品と 2 冊の詩画帳の絵画との関連性は今後の研究課題として残された。

しかし「上申の書」の解読は、16 世紀にイランで盛んになった画論の原初形態に幾つかの重要な示唆を与えてくれた。16 世紀のイランの諸画論は、イスラーム絵画の概念を伝える貴重な文献資料であり、欧米の研究者によって、ヨーロッパ諸言語への翻訳もあるが、必ずしも十分な検証に基づいているわけではない。「上申の書」を始め、2 冊の詩画帳のその他の書の作品に垣間見る美術用語は、今後のイスラームの画論研究にも重要な資料となることが予想される。

書と絵画の関連性に関して、表面的にすぐ理解できるような繋がりが無いことは、以前から知られているので、本研究では当時の文化や思想を背景とした間接的関連性、比喩的関連性を模索している。これらの詩画帳作製の最大の目的が、能書家や著名な画家やその流派の絵画の保存、それらを手本として使用すること、すなわち粉本の製作であったことはほぼ間違いないが、常識的に考えて、何の意図も無く同一のページにまったく何の関連性も無い作品を貼り合わせたとは考え難い。

この研究課題は未完成な部分が多いが、当時の文化、美術、思想のみでなく、政治、経済、社会など広い背景を考慮しながら大まかな分類を試みるのが妥当であろうという結論に達しその分類に着手した。

研究目的③に関して：絵画に残された画家名を含む書き込みの分析・整理を行った。2 冊の詩画帳に関する書き込みの本格的、総合的分析は、おそらく本研究が始めてである。

外国における先行研究では、書き込みに関してはサインと考えるのが一般的であるが、それらのサインに関しても部分的な研究しか行われていない。

本研究では、絵画に書かれた画家名は、画家のサインではなく、書き込みで、それも後世のものがほとんどと考える。この意見は筆跡の多様性や、書き込みの書かれた場所などを考慮した結果である。書き込みの筆跡による分類、書き込みの画面内または画面外における位置の分類、書き込みのある作品の画題別分類、画法的分類を中心に研究を進めた。

画家名としては、スィヤーフ・カレム、シャイヒー、ハリール、ホルダク、デヴレトヤールなどが複数回登場するが、最も多いのはスィヤーフ・カレムとシャイヒーである。しかしこれらの画家は詩画帳以外の作品に登場することは無く先行研究でも画家に関する情報は推論の域を出ない。このような状況を踏まえ本研究では、書き込みが有る作品を多角的角度から分類し、詩画帳の編纂された15 世紀後半の白羊朝絵画の動向、絵画に対する評価基準、絵画の種類別重要度などの指針とした。

研究目的④に関して：2 冊に貼られた書の作品 1448 点の内容、書家名、書の作品、書の作品形態の分類、奥書のある総ての作品の索引の作成を行った。きわめて膨大な資料であるが、研究協力者関喜房の綿密な分類・整理によって白羊朝の書家の系統が解明された。（雑誌論文３）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

① ヤマンラール水野美奈子
“ティームール朝の書家ジャアファル・バーソンゴルの「上申の書」:和訳、解説、サライ・アルバムにおける意義”、『龍谷紀要』第 30 巻 2 号、2009,pp.67-89、（査読有）

② ヤマンラール水野美奈子
“トプカプ宮殿美術館所蔵のサライ・アルバムにおける半円形図案画の考察：馬具に見る東西交流の痕跡”、『龍谷大学国際文化研究』第 13 号、2009,pp.3-14、（査読有）

③ 小柴はるみ（研究協力者）・松本菜穂子
“『サライ・アルバム（宮廷詩画帳)』（トプカプ宮殿美術館蔵）に描かれた音楽・舞踏（４）”、東海大学紀要、第 39 輯、2009,pp.143-168

④ 関喜房（研究協力者）
“The Zarafshānī Technique in Two Albums by Sultān Ya’qūb”、Nāmeh-ye Bahārestān,vol.13-14、2008,pp.77-84、テヘラン（原文ペルシア語)、（査読有）

⑤ 小柴はるみ（研究協力者）・松本菜穂子
“『サライ・アルバム（宮廷詩画帳)』（トプカプ宮殿美術館蔵）に描かれた音楽・舞踏（２）”、東海大学紀要、第 37 輯、2007,pp.1-38、（査読有）

⑥ 関喜房（研究協力者）
“Calligraphic works in the two Albums of Sultān Ya’qūb”、Nāmeh-ye Bahārestān vol.11-12、2006,pp.406-307、テヘラン（原文ペルシア語)、（査読有）

⑦ 小柴はるみ（研究協力者）・松本菜穂子
“『サライ・アルバム（宮廷詩画帳)』（トプカプ宮殿美術館蔵）に描かれた音楽・舞　踏”、東海大学紀要、第 36 輯、2006,pp.37-70、（査読有）

６．研究組織

(1)研究代表者
ヤマンラール　水野美奈子
（YMANLAR MIZUNO MINAKO）
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：50279098

(2)研究協力者
杉村　棟
国立民族学博物館・名誉教授
関　喜房
東海大学・教養学部・非常勤講師
小柴はるみ
東海大学・名誉教授